



挨拶が人々をつなげる笑顔の世界

目 淑乃

日本の文化において、レストランやコンビニなどで挨拶を交わす光景は、残念ながらやや事務的に行われる傾向があります。かつては「こんにちは」や「ありがとうございます」といった挨拶が、至るところで当たり前に行われていました。しかし、近年ではそのような心温まるコミュニケーションが薄れつつあります。学校で挨拶運動まであるのは、日本で挨拶がいかに難しいかを表しています。

大学でトイレの掃除をしてくださっている方に、私が「おはようございます」と挨拶したときのこと。「今まで挨拶をしてもらったことがないので、とてもうれしいです。あなたみたいな人には今後も会わないかもしれない。」と言われたことがあるくらいです。

一方、タイの文化では、挨拶は日常的な交流の一部として大変重要な役割を果たしています。レストランに入るときには「サワディーカー」、店を出る際には「コップンカー」と、挨拶が飛び交います。このような挨拶の習慣を通じて、人々は心からのコミュニケーションを築いているのです。日本と異なり、タイでは挨拶は単なる形式的なものではなく、相手への尊重と温かい気持ちを伝える重要な手段とされています。

タイのように、どこでも心からの挨拶が耳に飛び込んでくる環境は、人々に笑顔とつながりをもたらします。研修中、現地の高校生と交流する機会がありました。挨拶でつながりあった彼らとは今も連絡を取り合っているのです、また会いに行きます。